

# 地域スポーツクラブにおける陸上競技の可能性

生涯スポーツゼミナール 1316023 小宮山 悠

## 1. 研究動機・研究目的

現在、日本のスポーツ界におけるトップは言うまでもなく「企業」のスポーツであり、それは陸上競技界においてもそうである。「企業スポーツ」は日本のスポーツにおける競技力の向上はもとより、生涯スポーツの振興にも大きな役割を果たしてきたと考えられる。しかし近年、企業のリストラ率が高まる中、多くの企業運動部が休・廃部に追い込まれ、「企業スポーツの危機」と騒がれる事態が長く続いている。また、これからさらに少子化・教員の高齢化が進み、運動部活動の縮小や指導員不足も進行していき、スポーツを続けるための環境が狭まっていく、若しくは悪化していくと考えられる。このような現状を踏まえ、陸上競技に限らず、日本のスポーツ界全体において、世代を超え、それぞれのライフスタイルに合ったスポーツを行い、大きな視野から日本を代表するようなトップアスリートを育てる取り組みが必要だと考えられる。そこで注目されているのが、多世代型の地域スポーツクラブである。

そこで、本研究では、陸上競技に特化した総合型地域スポーツクラブに焦点を当て、地域におけるクラブの必要性や有用性、そして参加者の競技力の推移等について探っていきたいと考えた。

## 2. 研究方法

本研究では、陸上競技を行っている大学生（大学院生を含む）を対象とする。研究の目的から、ある程度（少なくとも中学生時代から）継続している人が望ましいが、その点については調査内容で判断し、調査結果に反映することとする。また、幼少期に陸上競技だけでなく、他の競技も行っていた人がいる可能性もあるので、そういった内容も視野に入れつつ調査を行う。

本研究での調査方法は、Google フォームでの調査である。調査内容としては、質問項目は全部で24項目に及び、主に競技者の陸上競技との関わり、競技力の変遷について問うものである。

## 3. 主な結果と考察

アンケート総数が少なかったこともあるが、大学まで陸上競技を続けている選手の中で幼少期に地域スポーツクラブで陸上競技を始めた人は、学校部活動やスポーツ少年団で陸上競技を始めた人よりも圧倒的に少なかった。一方、地域スポーツクラブで陸上競技を始めている回答者たちの方が、そうでない回答者と比べて、幼少期から始めていることがわかった。

競技力に関しては、地域スポーツクラブに所属していた回答者たちは、大多数が向上したと回答しており、向上していないと回答した人はいなかった。一方、地域スポーツクラブ以外(学校部活動やスポーツ少年団)の回答者には、「あまり向上していない」と回答している

人もいた。比較すると、地域スポーツクラブに所属していた方が競技力の向上があったということがわかる。

そして最後に、大学卒業後の陸上競技の継続に関して、地域スポーツクラブに所属していた回答者は、プロ・アマチュア・趣味健康維持全てを含め続けるという回答が 80%を超えており、続けないという回答は 10%未満だった。一方、地域スポーツクラブ以外(学校部活動やスポーツ少年団)の回答者は、プロ・アマチュア・趣味健康維持全てを含め続けるという回答は 70%で、地域スポーツクラブよりも 10%少ない結果だった。また、続けないという回答は 20%を超えていた。比較すると、地域スポーツクラブに所属していた方が、地域スポーツクラブ退会後や大学陸上部卒業後も、陸上競技に関わっていく若しくは陸上競技を続ける意思があるということがわかった。

#### 4. 結論

結論として、幼少期より地域スポーツクラブに所属することは、競技力向上の一助となり、一生涯を通じて行える運動として確立されるということがわかった。

ただ、陸上競技を始めるにあたって、地域スポーツクラブではなく学校部活動で始める人が多いため、陸上の地域スポーツクラブの知名度・人気度が高いとはいえない。多種目型クラブの中で陸上競技が選択されないのではなく、地域スポーツ型クラブという選択肢がないというのが現状であると考えられる。そのため、本研究の結果や、地域スポーツクラブの魅力をもっと世間に公表し、地域スポーツクラブの知名度を上げていくことが、陸上競技界全体のレベルアップへと繋がると考えられる。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆を終えて、今までただの疑問でしかなかった事象について、このように研究結果を明確にすることができ、達成感はもちろん、感謝の気持ちでいっぱいです。本研究を進めるにあたり、担当教員である黒須充教授を始め、ゼミ員の方々には大変お世話になりました。また、調査に協力していただいた大勢の大学陸上競技関係者の方々のおかげで、本研究では様々に深く考察をすることができたため、多大なる感謝をしております。本論文の執筆にご協力、ご指導、ご鞭撻いただいた多くの方々に改めて感謝の意を表させていただきます。ありがとうございます。